

第三者意見

駿河台大学経済経営学部・同大学院総合政策研究科教授
日本経営倫理学会副会長 博士(経営学)
水尾 順一氏



経歴 株式会社資生堂を経て1999年駿河台大学に奉職、現在に至る。(社)経営倫理実践研究センター上席研究員、2010年ロンドン大学客員研究員他。著書『マーケティング倫理が企業を救う』生産性出版、『CSRで経営力を高める』東洋経済新報社、『セルフ・ガバナンスの経営倫理』千倉書房など

高く評価できる点

日本が抱える社会的課題の解決に向けて、積極的に取り組む同社の活動が十分に開示されています。

住友生命グループ(以下、同社)は保険事業と関連事業の健全な運営と発展を通じて、人間の命を守り、豊かな人生に貢献するという使命を果たしています。社会的課題を解決しながら、明るい長寿社会の実現に貢献する活動を、2014年度ディスクロージャ誌から読み取ることができます。具体的には、①3大疾病の一つである「がんの情報提供と啓発活動」、②ダイバーシティの視点から「ワーク・ライフ・バランス、男女共同参画など女性が働きやすい社会の実現サポート」、③少子高齢化社会を見据えた「子育て・子育て支援」活動が特集記事として掲載されています。これらは、現在日本社会が抱える重要な課題であり、お客さまのライフサイクルに合わせて、同社が本業を通じて取り組む戦略的CSR活動といえます。

共感の輪を拡げていく活動が十分に「見える化」され、ブランド・ビルディングに結びついています。

「住友生命ならではの」の価値を、社内に浸透・定着を図る「インナーブランディング」の活動は、組織の一体感を高めます。その一つの活動である「いいね！カード」の活用で相互にほめ合い、認め合う風土の醸成は共感の輪を拡げることとなります。この共感については、『国富論』の著者で有名な経済学者のアダム・スミスが、『道徳感情論』(筑摩書房)という著書の中で、「組織の繁栄には、互いに相手を思いやる“共感の思想”が重要」と指摘しています。同社の中で育まれた共感、組織の求心力を高め、インナーブランディングを創造するエネルギーにつながります。

一方、多様なメディアを通じて、お客さまや取引先などに発信するアウトナーブランディングの活動は、企業外部からの信頼と共感を高め、顧客満足に結びつきます。最終的には社内に

フィードバックされて従業員の満足につながるという「ブーメラン効果」を生み出します。

このように、インナーとアウトナーのブランディング活動は、善循環で相互に価値を高め合い、お客さまからみて「一番薦めたい保険会社」への礎を築くこととなります。

今後に期待する点

女性活躍支援の先進企業として、より一層のダイバーシティを期待します。

同社は、女性がいきいきと働き続けることができる職場をめざす全社的な取り組みが評価され、昨年度は「ダイバーシティ経営企業100選」や「第7回ワーク・ライフ・バランス大賞優秀賞」に選出されるなど、ダイバーシティに関する数多くの賞を受賞しています。

ダイバーシティへの取り組みは、女性が88%を占める同社において組織の活力を高める全社戦略の要となります。さらには、お客さまの多くが女性である事を考えれば女性の視点からマーケティング判断を行うことは極めて重要です。今後、この取り組みに一層ドライブをかける意味からも、全社的な立場に立ち、女性の目からCSR戦略を考える女性役員(取締役・執行役員)の存在が経営層の中で不可欠と感じます。ただ、女性役員の登用は年齢やキャリアなどから時間を要する課題であることも事実です。そうであれば、当面は現在の社外監査役に加えて、以前任命していた女性の社外取締役の復活も必要と感じます。あるいは、女性の意見を取締役に提言または意見具申ができる組織、たとえば「レディース・ジュニアボード(LJB)」(仮称)の設置なども一考に値します。同社は平成18年度から女性の活躍を支援する組織を設置していますので、この組織をLJBに発展させることも選択肢の一つとして考えられます。

ダイバーシティに取り組む日本を代表する先進的な企業として、より一層の進化を心から期待しています。

第三者意見を受けて

住友生命保険相互会社 取締役専務執行役員 本城 正哉

貴重なご意見をいただき誠にありがとうございます。当社では、「お客さまから見て『薦めたい会社』、職員から見て『いきいきと働ける会社』、社会から見て『なくてはならない会社』」を理想の会社に掲げ、その実現を目指しております。いただいたご意見をふまえ、

女性活躍支援の先進企業として、今後もより一層ダイバーシティ推進への取組みを進めるとともに、引き続き、理想の会社の実現に向けて、お客さまをはじめとするすべてのステークホルダーから信頼され必要とされるよう取り組んでまいります。

